

## 【津幡町】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させた、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。

ICTを効果的に活用することで、児童生徒一人一人が自分の考えや興味・関心、学習進度に応じて学習を進め、解決のための情報を各自で取捨選択しながら目標に迫る「個別最適な学び」を実現するとともに、多様な考えに触れ、自己の考えを補完・深化させながら目標に迫る「協働的な学び」を推進していきます。

ICTを活用した学習活動を積極的に取り入れ、児童生徒が自ら判断し、端末を活用して課題解決の方法や必要な情報、交流相手等を自己決定しながら学習を進めることを通じて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、児童生徒が主体的に課題解決に取り組み、資質・能力を育成していくことを目指します。

#### 2. GIGA第1期の総括

各校にGIGA校内研修推進リーダーを設置し、校務分掌として位置づけるとともに、ICT活用法についての校内研修や事例紹介を定期的の実施し、ICTを効果的に活用する授業づくりを推進してきました。これにより、指導方法を共有し、学校全体のICT活用指導力の向上を図ることができました。

1人1台端末環境及びクラウド環境が整備されたことで、授業におけるICT活用が進み、児童生徒はそれらを活用して情報収集を行ったり、資料を共有したり共同編集したりしながら学習を進められるようになりました。

また、これまでは分からないことがあると学習が自走できなかった児童生徒も、他者の考えを参照しながら自分の考えを表現したり、課題解決をしたりできるようになり、自律的な学習者の育成に繋がっています。

しかし、端末利用頻度に学校間、学級間、教員間で差がある現状もあり、具体的な活用場面や活用方法についての校内研修や、児童生徒の姿として現れる端末利用の効果や好事例の共有などを進めています。

#### 3. 1人1台端末の利活用方策

##### (1) 1人1台端末の積極的な活用

##### 【活用場面のさらなる拡充】

町立図書館の「デジタルライブラリー」を各自の端末で利用できるようになったため、朝読書や授業での並行読書、探究活動での書籍利用などで積極的な活用を促進していきます。

##### 【家庭学習における積極的な端末利用】

課題の配布・回収機能やデジタルドリルなどを活用し、児童生徒自身が家庭学習の計画や振り返り、改善を行うことを支援していきます。

### 【他校との交流学习における端末活用】

特に、町内にある３校の小規模校同士で遠隔授業を行い、多くの児童と意見交換を行う機会を提供していきます。小規模校の６年生は同級生が非常に少なく、中学進学に不安を抱える児童もありますが、交流を深めることでその不安軽減にも繋がると考えています。

### （２）個別最適・協働的な学びの充実

今後は「子供主体の授業の充実に向けた１人１台端末の効果的な活用」をさらに推進していきます。

そのために、端末の特性を活かし、「他者参照」、「状況把握」、「学びの足跡や振り返りの蓄積」を児童生徒が自ら判断して実施できるように、好事例を共有していきます。

「他者参照」を通じて、考えがまとまらない児童生徒には学びの進展を促し、考えを持っている児童生徒にはその考えを発展させたり、深めたりする手掛かりとなるようにします。これにより、すべての児童生徒が学びを止めることなく、自分のペースで学習を進められるようにします。

「状況把握」によって、教師が児童生徒の状況を的確に把握し、支援を行えるようにします。

「学びの足跡や振り返りの蓄積」を通じて、児童生徒が自己肯定感を高め、学び方を習得できるように支援し、その過程で自己調整力を高められるようにしていきます。

### （３）学びの保障

どの学級にも、発言意欲や頻度が高い児童生徒がいる一方で、考えを持っているが発言できない児童生徒もいます。授業においては、発言力のある児童生徒の意見だけで進行するのではなく、ICTを活用して、発言しにくい児童生徒の意見も埋没せず、すべての考えが尊重されるようにしていきます。

緊急時や長期欠席の児童生徒に対しても、１人１台端末を活用して学びを保障し、授業の様子の配信や学級に関する情報共有を行い、児童生徒との関わりを維持することで、安心感を提供していきます。

また、学力調査のCBT化に合わせ、別室や教育支援センターでの実施ができるように支援を行っていきます。